



よく使う日本語

だれが、どうします。何が、どうします。【動作】
～と思います。～とかんじます。【感想】

基本的な流れ

指導のポイント

1 先生が読む話を聞きながら、話の順番に絵を並び替える。(聞く・読む活動)

○教科書に載っている物語の挿絵を用意しておく。パソコンで行ってもよい。

※ここでは「おむすびころりん」を読む。

T: 「話の順に絵を並べかえましょう。」

T: 「だれが、どうしましたか？」

S: 「おじいさんが、おむすびを落としました。」

T: 「何が、どうなりましたか？」

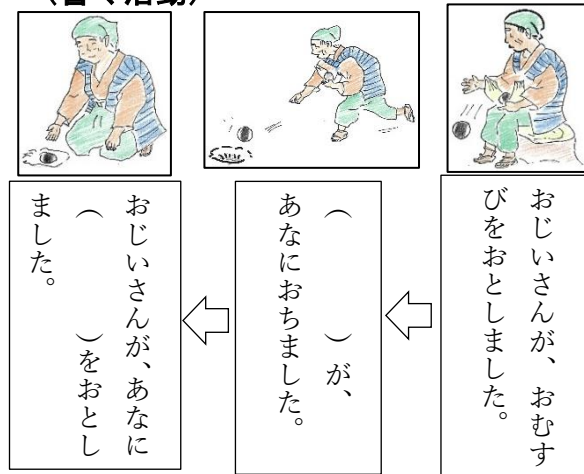
S: 「おむすびが、穴に落ちました。」



さらに他の話で取り組むなら、「だれが、どうする」が分かりやすく、短い話から始めるとよいでしょう。教科書に出てくる「おおきなかぶ」「かさこじぞう」「くじらぐも」などでもいいですし、「花さかじいさん」「いなばの白うさぎ」「さんまいのおふだ」などの昔話でもよいでしょう。

2 並べ替えた絵を見ながら文を書く。(書く活動)

○並べ替えた絵に合わせ「誰がどうする。」「何がどうなる。」の文を書かせる。実態に応じて、穴埋め文にしてもよい。



T: 「だれが、どうしましたか？」

S: 「おじいさんが、おむすびを落としました。」

T: 「何が、穴に落ちましたか？」

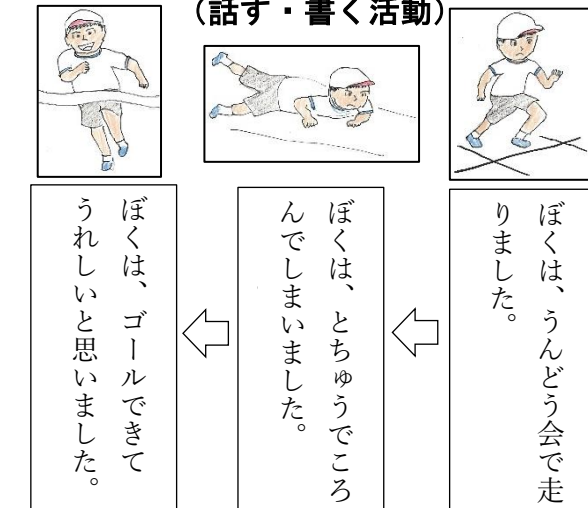
S: 「おむすびが、穴に落ちました。」

※高学年以上は、

- ・話の感想を聞いて書かせる。思ったことや感じたことを書かせる。感想の語彙を用意しておくとうよい。
- ・物語文ではなく、説明文でも同じような活動をする。

3 自分のことを話したり、書いたりする。(話す・書く活動)

○事前に撮った児童自身の日常の写真を並べ替えながら、まず口頭で話をさせる。学校行事の写真などでもよい。可能であれば絵日記や作文につなげていく。



※高学年以上は、

- ・だれが、どうするという「したこと」だけではなく、「見たこと」「聞いたこと」「話したこと」「思ったこと」などの視点を与えて話したり、書かせたりする。

